

原子力規制委員会記者会見録

- 日時：平成30年7月25日（水）14：30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：田中委員長代理

<質疑応答>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから原子力規制委員会の定例会見を始めます。

本日は、更田委員長海外出張のため、田中委員長代理が対応させていただきます。よろしくお願いたします。

それでは、皆様からの質問をお受けします。いつものとおり、所属と名前をおっしゃってから質問の方をお願いいたします。

それでは、質問のある方は手を挙げてください。デミズさん。

○記者 読売新聞のデミズと申します。

せっかくですので、もんじゅに関する一言聞かせていただけたらと思います。面談録なんかを拝見しますと、トラブルが続いているようなのですが、委員長代理として、7月中の取り出しというのは現実的とお考えなのではないかというのを、まず一つ教えてください。

○田中委員長代理 トラブルといいましょうか、今現在、彼らは訓練とか、あるいは総合機能検査とか試験等をやっているところなのですね。そこで出てきたいろいろな問題については、立ち止まって考えて、今後のためにいろいろな対応をするということが重要でございますので、小さなトラブル的なところはありますけれども、彼らはしっかりと対応をしてもらうことがまず大事かなと思います。

そういうようなこれまでの訓練とか試験を踏まえて、今後の日程をどうするか等については、JAEAがしっかりと考えることかなと思っています。

○記者 わかりました。

規制委員会の皆さんは、スケジュールありきではなくて安全第一ということを常々おっしゃっていますけれども、その点について、どうお考えでしょうか。

○田中委員長代理 スケジュールありきになると、悪い言い方をすれば、何かもう十分に対応ができていない状態においてもどんどんやっていくことによって、結果として悪いことがあってはいけませんので、我々としては、いつもスケジュールありきではなくて、安全確保第一に着実に行ってほしいと。言っていることはそういうことでございます。だから、今回のことも、小さなことがあったとしたときに、まず立ち止まって考えて、どうしてそうなったのか、どう対応すればいいかをしっかりと考えてもらっているのかなと思います。それが大変重要かなと思います。

○記者 ありがとうございます。

○司会 御質問のある方。ヨシノさん。

○記者 テレビ朝日、ヨシノです。初めまして。よろしくお願いします。

関連でもんじゅなのですけれども、外側から見ていると、かなり不安感も私たち見ている側は持っているのですけれども、委員長代理が御覧になって不安視されている部分というのがありましたら、改めて教えてください。

○田中委員長代理 普通の燃料取り出しと違って、見えないところでやるというところがありますね。ナトリウムの中から取り出すのだとか、それから、また同時に、化学的に活性であるナトリウムがあるのだというような、普通の炉とは違うようなことを十分認識して、彼らがしっかりと対応してもらおうことかと思っています。

それイコール不安感というよりも、ほかの軽水炉とは違う点を十分認識して対応してほしいと思っていますし、我々ももんじゅの監視チームにおいて、そのような観点からしっかりと見ているところでもあります。

○記者 最後にしますけれども、こういう中で炉外燃料貯蔵施設からの取り出しということになってくると思うのですけれども、委員会として、規制庁として何かそれに対しての特別な対応といいますか、関心や強化というのはありますでしょうか。

○田中委員長代理 特別ということはないのですけれども、監視チームの中においても、先ほど申し上げましたが、普通の軽水炉あるいは水冷却とは違うのだということも十分認識して、安全確保という観点から我々もしっかり見ているし、また、JAEAが十分とそのことを認識してやってくれているかどうかを見ているというところがあります。

それから、御存じのとおり、先ほどというか、今回の訓練とか試験においても、やはりナトリウムの中から取り出してこうするわけですから、やはりナトリウムがどこかにちょっとひっついていたりするとか、そういうことが十分と起こると言ったら怒られますけれども、そういうような可能性はゼロではありませんから、それを十分と考えて対応するということが大事かなと思っています。

○記者 ありがとうございます。

○司会 それでは、スズキさん。

○記者 毎日新聞のスズキと申します。よろしくお願いします。

もんじゅで関連なのですけれども、現時点でJAEAはまだ7月末に燃料の取り出しに着手するという予定は今のところ変更はしていないと思うのですけれども、規制委として、特にその期限について、こだわってはいないということなのでしょうか。

○田中委員長代理 初めのもんじゅの廃止措置計画等々のときには、彼らの方から、もんじゅの燃料取り出しは大体このぐらいまで等々というような、一応、スケジュールは示していただいていますけれども、逆にスケジュールありきでいってしまって、結果とし

て安全上問題となることが起きてはいけませんから、そこは彼らとしてしっかりと考えてもらって、先ほど申し上げましたが、訓練とか総合機能試験の結果も参考にして、彼らがしっかりとしたスケジュールを考えるものだと思っています。

○記者 わかりました。

今、機能試験とか、そういうものを日々実施していて、現地の規制庁の検査官からも、日々、多分、状況は報告が来ていると思うのですけれども、ちょっと感覚的な話で恐縮なのですけれども、安全に取り出す準備が今できているのかという、その辺の委員長代理としての感触というのをちょっと聞かせていただけたらなと思ひまして。

○田中委員長代理 今、話がありましたとおり、現地の検査官も毎日何人か見えていますし、重要な作業をするときには監視チームのメンバーもそこに行って見ているということで、私としても彼らから毎日のように状況を聞いてございます。

今、質問がございました、委員としてどんな感触なのかということで、私も若いときに、大学のおきですけれども、液体金属を使ったことがありますから、普通の水と違う、どこが特徴であって、どこに注意しなくてはいけないのか、それなりにわかっているつもりでございますので、そういうことをもちろん私だけではなくて監視チームのメンバーもわかっていますから、そういうことからしっかり見ているということでございます。

○記者 わかりました。

ちょっと別件なのですけれども、今週、1Fの放射性廃棄物の方の検討会があったと思うのですけれども、その場で委員長代理が最後に、1Fの検討会は二つあって、今後、そのあり方をどうしようかというのを考えたいというようなことを言及されていたと思うのですけれども、ちょっとその意味がよくわからなかったもので、そこをちょっと教えていただけたらなと思ひまして。

○田中委員長代理 現在、1Fについては、御存じのとおり、特定原子力施設監視・評価検討会というのと、特定原子力施設の放射性廃棄物規制検討会と二つあるのですね。廃棄物規制検討会は、廃棄物の中でも特に固体廃棄物について、どうするか、どう見ているかというところを見ているのですけれども、結構、廃棄物といっても、液体もあれば固体もあるということと、また、それから、監視・評価検討会でやっていることと廃棄物の方の検討会でやっていることと結構オーバーラップするところがございますから、そこは今のよう二つのままでいいのかどうかを委員会の中でしっかりと議論して、考えていきたいなと思ひています。だから、もしかしたら、その二つを一緒にすることもあるかもわかりません。そういうことでちょっと発言したところでありました。

○記者 では、今後は統合も視野にこれから委員会でちゃんと議論していくということですか。

○田中委員長代理 はい。

○記者 わかりました。ありがとうございます。

- 司会 ほか、御質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。よろしいですか。
- 田中委員長代理 せっかくの機会ですから、何なりと質問してください。
- 司会 ということなので。では、イワマさん、どうぞ。
- 記者 毎日新聞のイワマです。

話は変わりますけれども、本日午前中の定例会の議題3の方で、防災訓練の関連で山中委員からも東電に対して厳しい言葉などがありましたけれども、今後の例えばスケジュールの設定ですとか、各原発の設定の方法を規制委の方でもやりとりしていくとか、そういう動きも考えられるのかなとか、いろいろ考えることはあったのですけれども、ああした東電のそうした対応、防災訓練に対する対応ですとか、あるいは今後、規制委としてどういう点をより重視していきたいかなど、感じたこと、受けとめたことなどがありましたら。

- 田中委員長代理 ありがとうございます。

一般論として、事業者が事故のときに本当にうまく対応できるのか。言ってみれば防災時の対応ですね、それが大事でございます。その訓練として、やはり防災訓練をやり、それから、我々規制委員会、規制庁との関係で情報共有ということはありますから、そこをしっかりとやっていくことが大事かなと思っています。

それから、今日も発言したかどうか忘れちゃったけれども、今回の評価結果を東電としては重く受けとめていただいて、しっかりと対応していただくことが大事かなと思っています。

- 司会 ほかはございますか。タケウチさん。

- 記者 共同通信のタケウチと申します。

話はまた変わりますが、六ヶ所の再処理の方なのですけれども、今はまだ審査は、たしか上物といいますか、プラント側の方は何となく終わったような雰囲気に見えて、地盤の方をもう少しやりますということで前の会合が閉じたふうに記憶していますが、委員長代理が上物を基本的に担当されていると思うのですが、今のところは、六ヶ所の地盤を除けば、基本的には対策についてはほぼ議論は終えているという理解をしてよろしそうですねでしょうか。

- 田中委員長代理 今、担当という言葉があったのですけれども、私自身は、規制委員会は全ての委員が全てのものに対して討議、審議して決めるということですから、私は余り担当という言葉は好きではありませんけれども、プラント側の審査に出席してございますけれども、話がありましたとおり、プラント側とすれば、これから補正が出てくるのですけれども、その中で、特に大きな論点があるとしたら、再度審査会合を開くかどうか分かりませんが、プラント側は大体は終盤になっているのかなと思います。それに対して、自然の方は、御存じのとおり、7月13日でしたか、審査会合があって、地震・津波等関係の審査をやったのですけれども、その中の巨大噴火の可能性の話

が出て、これについては事業者から、次回、この件に関し、審査会合の場で説明いただくことになっているかと思います。

- 記者 これまた感覚的な部分かもしれないのですが、六ヶ所は原子力政策上、非常に重要な施設だと思いますが、認識としては、審査はもう終盤にかなり近いところにあるという認識を持たれているということでしょうか。
- 田中委員長代理 はい。これから補正等々の中で、また新たな論点等があればどうなるか分かりませんが。
- 記者 分かりました。ありがとうございます。

○司会 その前の方。

○記者 NHKのフジオカです。よろしくお願いいたします。

先ほどの六ヶ所再処理の関係で補足でお尋ねしたいのですが、今後の事業者の日本原燃からの申請、補正の中身次第で審査会合を開くかどうかというところがあると思うのですが、今のところ、委員長代理としては、この部分、どのようにお考えですか。

- 田中委員長代理 プラント側については、2年前、保安検査でも品質保証の問題等々についても再度聞いたりしていますので、大きな論点になるようなものはないのではないかと考えています。これは申請書に基づいての審査でございますから、実際の物を見ないと分からないところがございます。
- 記者 審査書案の取りまとめ、雨水流入の案件もあって、一時審査が止まっていたということがありますが、補正書の内容次第では審査会合を開かないまま、プラント側の方ですね、閉じてしまうこともあり得るというお考え、そこは変わらないということでしょうか。
- 田中委員長代理 可能性としてはあるかと思えます。
- 記者 その上で、審査書を取りまとめる時期といいますか、そのあたり、今のところで時期的なことをどのように、改めてお伺いします。
- 田中委員長代理 現時点ではまだ時期的なことが言えるような状態ではないかなと思います。これはほかの核燃料施設等と違って、大きな施設でございますから、しっかりと審査書も作らないといけないということもございますから、時期についてまで言える状態ではないと思います。

○司会 オガワさん。

○記者 朝日新聞のオガワと申します。よろしくお願いいたします。

せっかくの機会なので、一般的な質問になってしまうのですが、先ほどお話あったもんじゅなので、かつては研究者としても現地に赴かれたということなのですが、もんじゅの廃炉は規制委の勧告に端を発する部分があったと思うのですが、もんじゅの廃炉について、かつてはプルトニウム利用についても非常に大きな期待感があった

- と思うのですが、廃炉についてはどのように受けとめていらっしゃいますでしょうか。
- 田中委員長代理 難しい質問なのですけれども、もう一回質問の意味を、もんじゅの廃炉についてはどう考えているかと。
 - 記者 かつては、原子力に携わる方たちにとっては、非常に大きな希望を持って建設に至ったという経緯があると思うのですけれども、高速増殖炉が廃炉になることについてはどのようにお考えでしょうか。
 - 田中委員長代理 まず、一般的な話になるか分かりませんが、施設の大小にかかわらず、しっかりとした安全対策ができていることを確認することが大事なかなと思うのです。あのときも議論がありましたけれども、もんじゅというのは出力が大きいし、結構電気も作るのだということで、普通の試験炉とは違う、要するに、研究開発段階の実用炉に近いところなのです。それには相応のいろいろな対応をしていただかなければいけないのですけれども、それが十分できなかった、できていなかったというのが、あのような勧告を出した一番の理由かなと理解してございます。
 - 記者 運営主体であるJAEAなのですけれども、現在も東海再処理でも廃止措置が進むかと思うのですけれども、双方、大型の廃止措置を抱えるという、そのことについては、どういった点に着目して注目していらっしゃいますでしょうか。
 - 田中委員長代理 大きな施設、小さい施設、これから日本においては廃止措置をしっかりとしていけないといけないのですけれども、その中でも、今、話がありましたとおり、もんじゅとか、東海の再処理というのはほかにないような施設でありますから、JAEAがしっかりと対応していただかなければいけないし、そのときにも、その施設を造ったときのメーカーとか、いろいろな知恵もあるかと思うので、その辺の知恵を十分に吸収して対応していただかなければいけないかなと思っています。
 - 記者 双方とも非常に特殊な施設だと思うのですが、今後続く廃止措置にそういった知見がどのように生かされていくかみたいな、期待というものは何かございますでしょうか。
 - 田中委員長代理 燃料の取り出しが一例ですし、例えば、東海再処理においては、我々が一番心配しているリスクは、高レベル廃液がまだたくさんありますから、それを安定なガラス固化体にしてほしい。これは12.5年ぐらいかかるのですけれども、そういうものについて、日本国内、あるいは外国にもいろいろな経験もありますし、同時に外国の経験だけだといけません。彼らが設計して使ってきたわけですから、先輩も含めて、彼らの、あるいはグループのノウハウとか経験も踏まえてしっかりとやっていただかなければいけない。その中でもし抜けているような点があるとなれば、外部の人から意見をもらうことも大事かと思うのですけれども、逆に外部の意見だけに頼ってもいけないということもございます。
 - 記者 最後に1点。長くなりました。これも一般的なことなのですが、規制委員というよりも、一研究者としてということかもしれませんけれども、今後も高速炉の開発を続け

ていく政府の方針だと思うのですが、高速炉開発については、今後、日本としてどのように進めていくべきだというお考えがあればお聞かせいただけますでしょうか。

○田中委員長代理 現在、私の立場からはそれに対して余り意見を言えませんが、それに対しては国の方でしっかりと考えてくれることになるでしょうし、皆さん御承知のとおり、プルトニウム問題については原子力委員会ですっきりと考えてもらうことになっているかと思います。

○記者 ありがとうございます。

○司会 以上でよろしいでしょうか。それでは、本日の会見は以上としたいと思います。お疲れさまでした。

—了—